

【vol.51】マイナーキーことはじめ ～その3～ マイナーキーのダイアトニックコード

こんにちは、大沼です。

前回は、メジャーとマイナー両キーの、
平行調(リラティブ・キー)の関係性を見てきましたね。

その知識を踏まえた上で、今回は、
マイナーキー時のダイアトニックコードについて
学んでいきましょう。

やはりここでも重要になってくるのが、
リラティブ・メジャーのダイアトニックコードとの関係性です。

引き続き、Am キーを例に学んでいくのですが、実際の所、
C キーのダイアトニックコードとモノ自体は同じなので、
すでに、出てくるコードは知っている事になります。

なので、前回の平行調の考え方と同じように、
リラティブ・マイナーのキーにトータル・センターをずらした時、
それぞれのコードがどの位置(度数)にくるのか？

その際、メジャーキーでもやったような、

・T、D、SD の分類

・リラティブ・メジャーで把握したダイアトニックコードの位置を、
リラティブ・マイナーでは、どの様に見たら効率よく把握できるのか？

その辺りも考えていきましょう。

では、まずは、key=Am の時と、key=C の時のダイアトニックコードの確認から。

以下の様に並べてみると、違いと共通点の、どちらもはっきり見えてくるでしょう。

※key=Am

※key=C

| | | | | | | | |
|------|---------------|---------|------------|------------|---------------|---------|------------|
| I m | (I m7) | Am | (Am7) | I | (I M7) | C | (CM7) |
| II m | (II m7(b5)) | Bm(b5) | (Bm7(b5)) | II m | (II m7) | Dm | (Dm7) |
| bIII | (bIII M7) | C | (CM7) | III m | (III m7) | Em | (Em7) |
| IV m | (IV m7) | Dm | (Dm7) | IV | (IV M7) | F | (FM7) |
| V m | (V m7) | Em | (Em7) | V | (V 7) | G | (G7) |
| bVI | (bVI M7) | F | (FM7) | VI m | (VI m7) | Am | (Am7) |
| bVII | (bVII 7) | G | (G7) | VII m(b5) | (VII m7(b5)) | Bm(b5) | (Bm7(b5)) |

(※マイナーキーのV 7については後ほど解説します)

見ての通り、出てくるコード自体は全て同じもので、
順番が変わっているだけです。

このような関係性は、前回お話したように、
それぞれのキーに、平行調の関係性として見られるものです。

どのメジャーキーと、どのマイナーキーがリラティブな関係性にあるのか？については、
スケールなどから自分で調べてみるのも良いですし、実は、以前載せた SoF の図に、
ネタバレ的に書いてあったりもします。

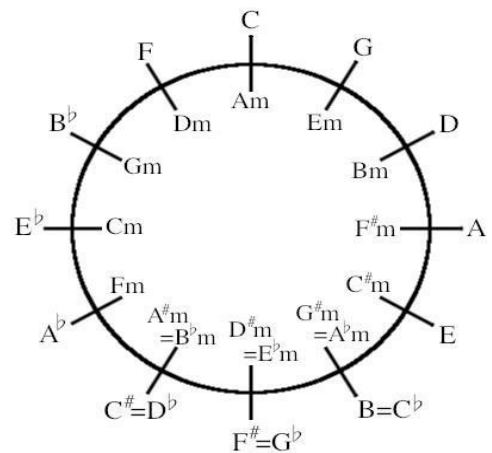
この図では、外側のメジャーキーと内側のマイナーキーが、それぞれお互いのリラティブ・キーになっています。

この図や五線譜上の調号だったり、スケールやダイアトニックコードなど、色々な知識を組み合わせ、
各キーとそれらの関係性を見ることが出来るようになっておきましょう。

それが出来ると、最終的に、
実際の演奏中での咄嗟の判断力が上がります。

特に、何かトラブったりしたときに、
瞬間的にフォローできる可能性が高くなりますので。

(※何度も演奏していると、一瞬、次のコードを忘れたり、キーを見失ったり、
使うスケールがわからなくなったりする時がその内来ます。そういった時、



これまでずっと学んできた知識で、上手く逃げる事が出来る場合があります。)

さて、次に、今回の主題である、ダイアトニックコードの把握についてなのですが、まず、

キーがメジャーでもマイナーでも、平均律の12音階がベースにある普通の曲の場合、(大本の)ダイアトニックコードは必ず、メジャー系コードが3つ、マイナー系コードが4つ

と言う構成になります。

メジャーキーで言うと、1度、4度、5度のコードがメジャー系、2度、3度、6度、7度のコードがマイナー系です。

マイナーキーで言うと、 $b3$ 度、 $b6$ 度、 $b7$ 度のコードがメジャー系、1度、2度、4度、5度のコードがマイナー系になりますね。

※赤字がメジャー系、黒字がマイナー系のコード

※key=Am

| | | | |
|--------------|------------------|------------|---------------|
| I m | (I m7) | Am | (Am7) |
| II m($b5$) | (II m7($b5$)) | Bm($b5$) | (Bm7($b5$)) |
| b III | (b III M7) | C | (CM7) |
| IV m | (IV m7) | Dm | (Dm7) |
| V m | (V m7) | Em | (Em7) |
| b VI | (b VI M7) | F | (FM7) |
| b VII | (b VII 7) | G | (G7) |

※key=C

| | | | |
|---------------|------------------|------------|---------------|
| I | (I M7) | C | (CM7) |
| II m | (II m7) | Dm | (Dm7) |
| III m | (III m7) | Em | (Em7) |
| IV | (IV M7) | F | (FM7) |
| V | (V 7) | G | (G7) |
| VI m | (VI m7) | Am | (Am7) |
| VII m($b5$) | (VII m7($b5$)) | Bm($b5$) | (Bm7($b5$)) |

見ての通り、リラティブ・キーの関係は、同じ構成音の中から、出発する音(トナル・センター)をずらしたただけなので、それぞれのコードが出てくる順番もスタートするコードが違うだけです。

上の表で、視覚的に単純に見た場合、違いは、AmとBm($b5$)が先に来るか後に来るかだけです。

そして、リラティブな関係性である、AmキーとCキーを比べる場合、CDEFGABの7音の内、トナル・センターがA音とC音のどちらなのか？で順番が決まる、と。

そうすると、自然と基準スケールが導き出され、上記のようなダイアトニックコードが構成されます。

次に、それらを把握した上で、指板上で、
マイナーキーのダイアトニックコードの位置を見ていきましょう。

vol.49 で、ナチュラルマイナースケールは、3 度、6 度、7 度の音に ♭ が付く、
と言う事をお話ししましたね。

で、実際に、上のコード一覧を見ると、その音に ♭ が付いているわけですが、
これと合わせて使う知識が、先に書いた、ダイアトニックコードは、
メジャー系コードが 3 つ、マイナー系コードが 4 つになる、という所です。

それを踏まえてもう一度表を見てみると、おなじみの C キーは 1 度、4 度、5 度の 3 つが
メジャー系のコードになっていて、残りの 4 つがマイナー系です。

そして問題の Am キーの場合ですが、♭ の付いている、3 度、6 度、7 度のコードが、
C キーでいう 1 度、4 度、5 度のコードと同じメジャー系のコードになっています。

なので、この様に、そっくりそのままずらして見てみるとわかりやすいですね。

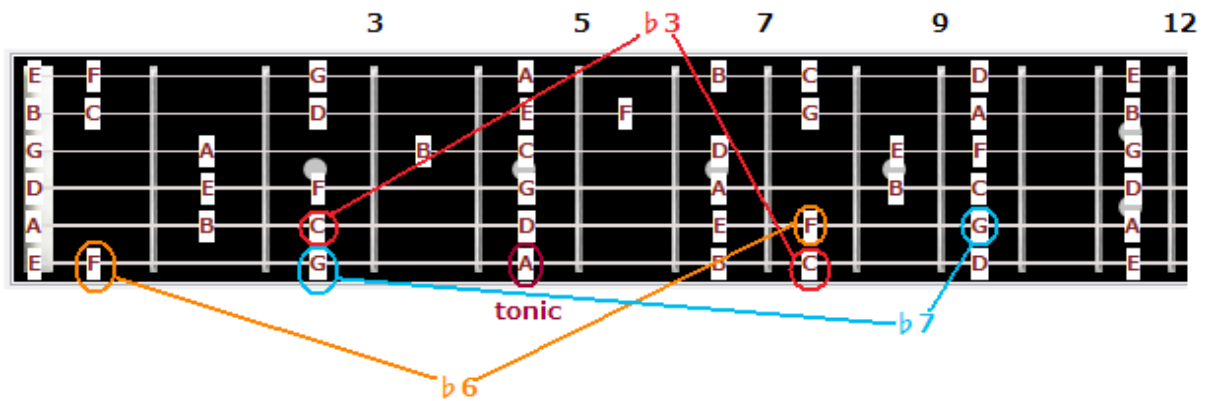
※key=Am

| | | | | | | | |
|-----------|---------------|---------|------------|--------|------------|---------------|--------------------|
| I m | (I m7) | Am | (Am7) | ※key=C | | | |
| II m(♭5) | (II m7(♭5)) | Bm(♭5) | (Bm7(♭5)) | | | | |
| ♭III | (♭III M7) | C | (CM7) | → | I | (I M7) | C (CM7) |
| IV m | (IV m7) | Dm | (Dm7) | | II m | (II m7) | Dm (Dm7) |
| V m | (V m7) | Em | (Em7) | | III m | (III m7) | Em (Em7) |
| ♭VI | (♭VI M7) | F | (FM7) | → | IV | (IV M7) | F (FM7) |
| ♭VII | (♭VII 7) | G | (G7) | → | V | (V 7) | G (G7) |
| | | | | | VI m | (VI m7) | Am (Am7) |
| | | | | | VII m(♭5) | (VII m7(♭5)) | Bm(♭5) (Bm7(♭5)) |

と言う事で、まずは、マイナーキーのダイアトニックコードは、ナチュラルマイナースケール内の、
♭ が付く音(度数)をルートにしたコードがメジャー系である、と覚えましょう。

この ♭ の付く音の位置を、指板上でマイナーキーのトータル・センター(tonic)から見た場合、
位置関係としてはこうなります。

※A ナチュラルマイナースケール上の、♭ の付く音の位置



そしてこれらの、マイナー側から見ると度数に♭の付くコードは、

- ・Cキーで言うⅠ度のコードC(CM7)が、Amキーで言う♭Ⅲ度のコード
- ・Cキーで言うⅣ度のコードF(FM7)が、Amキーで言う♭Ⅵ度のコード
- ・Cキーで言うⅤ度のコードG(G7)が、Amキーで言う♭Ⅶ度のコード

と、この様な関係になっていますね。

もうおそらく、Cキーのダイアトニックコードは、ある程度スムーズに弾けると思うので、今回は、Amキーのトナル・センターであるA音を基準に、マイナーキーのダイアトニックコードを把握していきましょう。

(※最初は6弦5フレットのA音を基準に見るとわかりやすいでしょう)

この練習は、それぞれのコードをゆっくり弾きながら、

- ・そのコードのルート音、はトナル・センターから見て何度にあたるのか？
- ・その度数のコードはどの種類のコードなのか？(メジャーか、マイナーか？)
- ・そのコードは、Cキーから見たら何度で、Amキーから見たら何度なのか？

こういった事を確認しながら、じっくりやってみましょう。

今回の内容が理解できて、手に馴染んでくると、その内、どのキーを弾いていても、そのキーでルート音となる音に勝手に手が行くようになり、そのルートのコードがどのコード(種類、メジャー、マイナーなど)になるのか？までパツと弾けるようになります。

そうなってくるとミスも減りますし、曲をコピーする時のスピードもかなり上がりますので。

これらの内容を把握したら、試しに、現時点で弾ける曲をどれか分析してみましょう。
(※出来たらマイナーキーの曲で)

色々見えるモノが違ってくるはずです。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼